

利用者満足度を高めるために

連載 最終回

新型コロナウイルス感染症対策

2023年1月現在、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の流行は第8波となった。新型コロナは2020年1月に日本へ入り、変異を繰り返しながら3年が経過した。マクロでみると、新型コロナと人類との共存の道が徐々に整ってきている。しかし、高齢者や基礎疾患のある方への影響は少なくない。三郷ケアセンター（以下、当施設）は200床の介護老人保健施設（以下、老健）であり、クラスターも経験している。ご利用者・ご家族にとってコロナ禍でも安心安全な施設でいることが、利用者満足につながると考えるので、当施設の新型コロナ対策をお伝えする。参考にいただければ幸いである。

新型コロナ対策組織

施設長を筆頭に、新型コロナウイルス対策委員会（以下、新型コロナ委員）を発足させた。委員会は感染対策委員会から派生しているものの、独立した委員会としている。

新型コロナ委員の方針は、ご利用者と職員を守る施設である。役割は水際対策、現場の感染対策、ワクチン対応、クラスター時の運営・事務処理マニュアルの作成である。

新型コロナ委員と各部署との検討事項等を密に行うため、出勤している全セクションのチーフを週2日招集していたが、現在は週1日としている。

地域の感染状況に合わせた対応

新型コロナ対策は、感染状況や新型コロナの変異に合わせるため、修正が多い。特

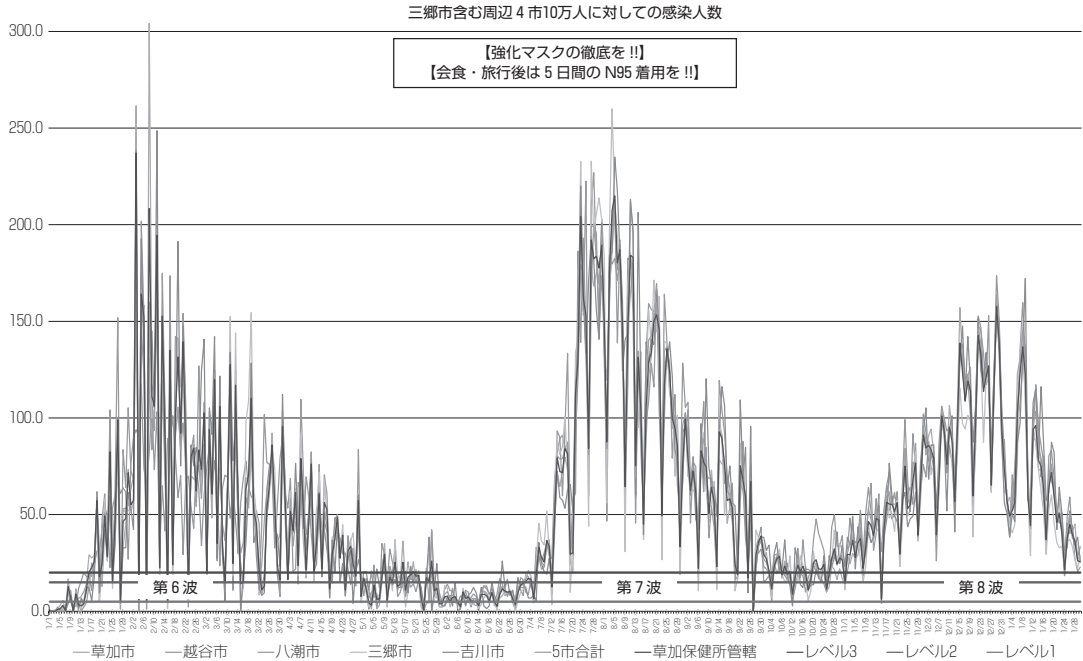
に、新型コロナの水際対策は情報収集力がカギになる。新型コロナの感染力は変異ごとに強くなっているため、家庭内や病院・施設で感染者が発生した場合の受け入れは、感染源と紐付けを確認し、当施設独自の慎重な判断にて対応する。

一例として、他の通所Aから新型コロナ感染者が出た場合、当施設を併用している利用者があるかを確認する。感染者が通所Aを利用した日に当施設併用のご利用者も利用した場合は、状況に合わせた日数、様子を見ることとしている。

これは、経験則による新型コロナの感染力を評価したためである。実際、様子を見ているうちに感染が確認された例は少ない。

水際対策は、厚生労働省の濃厚接触定義だけではなく、地域の実情に合わせた対策を常に考える必要がある。当施設独自の判断も入るため、情報収集を行う際には相手

図表1 周辺の感染状況



側への配慮も十分に行うことは言うまでもない。

また、埼玉県ホームページより周辺地域の感染状況を2022年1月からグラフ化し（図表1）、地域の感染状況に合わせたレベル別の対策（図表2）を作成している。

感染対策

現場の感染対策はエアロゾル感染を考えた、マスク・換気・消毒の強化を行っている。マスクは、性能と密着度を重視しJIS T-9001クラスIIを採用、密着力を強化したマスク着用方法を考案した（図表3）。

換気は空気調和・衛生工学などを参考に、密にならない定員数を試算した。定員数を超える人数が集まる場合は換気の徹底を行い、簡易式CO₂チェッカーも導入した。消毒については勉強会にてその重要性を説明

し、手指消毒方法の指導を行った。

ワクチン

市との連携を密に行い、接種を希望したご利用者が早急に接種できるよう接種日を調整した。当初、通所リハのご利用者は老健での接種ができなかったが、初期から行政に要望を出し続けた。国の方針が変更された際、情報が即座に入り早急な対応が可能となった。

現在も当施設での接種は続き、今もなお1回目のワクチン接種希望者がいる。従来型や2価ワクチン、メーカーなどの管理が複雑化してきているものの、接種希望者が接種できる環境は可能な限り継続していく。

クラスター対応

2022年7月に、大規模なクラスターを経

図表2 レベル別の対策

レベルと状況	運営	職員・その他職	入所・通所・訪問・地域支援員	体調管理 フォーム	高リスクに ならない対応	感染対策	1m以下かつ15分以上の 接触がある場合 (個別対応)	フロア業務	往診	(同居者以外)の 検査
5-3.入所フロアで感染発生	制限あり (ワーニングあり)	○感染フロア/専 任業務/ハシ ○全セクシ ○全セクシ	○感染フロアと通所・ 訪問・地域支援 員は制限なし 全セクシ	実施	規定遵守	感染フロア常時、N95マスク を着用し、 2m以上かつ15分以上の 接触を避ける 常時、強化版の 施設指定マスク	N95マスク+フェイスシ ールド	コロナ対応のみ業務 フリーゾーン対応	不可	不可
5-2.通所フロアで感染発生	制限なし	全セクシ	全セクシ	実施	規定遵守	常時、強化版の 施設指定マスク	感染レベルに合わせる	感染レベルに合わせる	感染レベルに合わせる	感染レベルに合わせる
5-1.その他で感染発生	制限あり (感染セクシ ン/カフスター化)	感染セクシ ン	全セクシ	実施	規定遵守	感染フロア常時、N95マスク を着用し、 2m以上かつ15分以上の 接触を避ける 常時、強化版の 施設指定マスク	N95マスク+フェイスシ ールド	感染レベルに合わせる	感染レベルに合わせる	感染レベルに合わせる
4.東京都で緊急事態宣言	制限なし	全セクシ	全セクシ	実施	規定遵守	常時、強化版の 施設指定マスク	感染レベルに合わせる	感染レベルに合わせる	感染レベルに合わせる	感染レベルに合わせる
3.追加保健所管内でまん延防止 し、感染者が追加保健所管内か ら3都府市のいずれかで10万人中20人以上	制限なし	全セクシ	全セクシ	実施	規定遵守	常時、強化版の施設指定マ スク 出勤時にチェック (施設指定マスク)	2重マスク+フェイスシ ールド、 1強化版の施設 指定マスク	○入所フロア業務2フロアまで ○入所と在宅の業務禁止 ○ST除く(在宅への対応は濃厚者 対応PPEにて)	不可	不可
2.東京都でまん延防止もしくは 感染者が追加保健所管内から3都 府市のいずれかで10万人中15~19人	制限なし	全セクシ	全セクシ	実施	規定遵守	常時、強化版の施設指定マ スク 出勤時にチェック (施設指定マスク)	2重マスク+フェイスシ ールド、 1強化版の施設 指定マスク	○入所フロア業務2フロアまで ○入所と在宅の業務禁止 ○ST除く(在宅への対応は濃厚者 対応PPEにて)	可 白衣、グローブ、 フェイスシールド	○可(6人程度) 出勤 時にN95 ○不可(まん延防止時)
1.感染者が東京都が追加保健所管 内から3都府市のいずれかで 10万人中5~14人	制限なし	全セクシ	全セクシ	実施せず	規定遵守	常時、強化版の施設指定マ スク 出勤時にチェック (施設指定マスク)	2重マスク+フェイスシ ールド、 1強化版の施設 指定マスク	○入所フロア業務2フロアまで ○入所と在宅の業務禁止 ○ST除く(在宅への対応は濃厚者 対応PPEにて)	可 白衣、グローブ、 フェイスシールド	○可(4人程度) 出勤 時にN95 ○不可(まん延防止時)
0-3.感染者が追加保健所管内から 3都府市のいずれかで10万人中4人 以下	制限なし	全セクシ	全セクシ	実施せず	規定遵守	常時、不織布マスク 出勤時にチェック (施設指定マスク)	不織布マスク	○入所フロア業務2フロアまで ○入所と在宅の業務禁止 ○ST除く(在宅への対応は濃厚者 対応PPEにて)	可 白衣、グローブ、 フェイスシールド	可(本人数は 能力控える) ○可(制限なし)
0-2.感染者が追加保健所管内で0 人	制限なし	全セクシ	全セクシ	実施せず	規定遵守	常時、不織布マスク 出勤時にチェック (施設指定マスク)	不織布マスク	○入所フロア業務2フロアまで ○入所と在宅の業務禁止 ○ST除く(在宅への対応は濃厚者 対応PPEにて)	可 白衣、グローブ、 フェイスシールド	可(制限なし)
0-1.感染者が追加保健所管内で0 人かつ東京都合計で0人の人数	制限なし	全セクシ	全セクシ	実施せず	規定遵守	常時、不織布マスク 出勤時にチェック (施設指定マスク)	不織布マスク	○入所フロア業務2フロアまで ○入所と在宅の業務禁止 ○ST除く(在宅への対応は濃厚者 対応PPEにて)	可 白衣、グローブ、 フェイスシールド	可(制限なし)
0-0.感染者が全園で0人	制限なし	全セクシ	全セクシ	実施せず	制限なし	マスクなし	制限なし	制限なし	制限なし	制限なし
備考 東京都(東京・埼玉・千葉・神奈川) 追加保健所管内(三都府市・吉川、 八海)					施設内感染リス ク評価表(別紙) 参照	○マスクの詳細は施設指定マ スク ※2重マスク+フェイスシ ールドと1強化版の施設指定 マスクはN95マスクと同等とす ○強化版の施設指定マスクはOHCA職員専用中を参照	制限なし	制限なし	制限なし	○出勤時にN95は、検査翌日 が1日として5日間着用す る ○N95は業務用 ○N95購入方法は施設指定マ スク表(別紙)を参照 ○検査の場所等決定をつける点 は、表裏について(別紙)を参照

(入所版・在宅版)で分け、ご利用者・職員・外部を対象にし、全52項目ある。この図は52項目の一部。

験した。会議室に感染対策本部を置き、保健所と連携し新型コロナ委員が常駐、指示を出した。外部との連携や届出など、事務作業を新型コロナ委員が作成、報告し、看護師が現場に集中できる環境を作った。

情報共有や検討事項についての協議を毎日行えるように、1日1～2回の会議を行った。必ず全セクション参加できるよう、オンラインと集合形式のハイブリッド会議とし、必要度に応じて土日を問わず実施した。

これらの管理運営を新型コロナ委員が担当した。クラスター対応は反省点も多くあり、現場からの振り返りアンケートも行い検討した。

情報共有

感染対策のポイントは、情報共有がスピーディーかつ全体に伝わることである。

2020～2021年までの情報共有は、安否確認アプリや職員専用ホームページなどを使用していた。本来、安否確認アプリは有事への投稿に特化したものであったため、カテゴリ別の投稿には手間がかかり、受け取る側も関係の薄い内容も届くため、確認したつもりになることも多かった。

2022年3月よりChatアプリを導入し、情報発信も気軽かつ手軽になった。詳細は11月15日号の本連載を参照していただきたい。

現在は、関係の深い部署にあてての情報

図表3 強化マスク



発信と意見や質疑がchat上で行えるようになり、対応スピードが増しコミュニケーションが円滑になっている。

おわりに

新型コロナにより世の中が一変し、Withコロナの着地点はまだまだ見えない。しかし、1年の連載を通じてコロナ禍でも利用者満足度を上げるためにしてきたことを振り返ることができ、当施設の次のステップが見えてきた。当施設はWithコロナでの利用者満足度を上げる行動を続けていく。